第２章　本市の食に関する特色

１　都市型農業と地産地消

２　充実した本市の学校給食

３　ボンチーヌによる食育活動

第２章　本市の食に関する特色

本市には、次のような特色があるため、これらを生かして、引き続き食育を推進します。

１　都市型農業と地産地消

（1）名水や多様な農産物を育む風土

本市は神奈川県央の西部に位置し、東部は伊勢原市、西部は松田町と大井町、南部は中井町と平塚市、北部は山北町、清川村及び厚木市に接しています（図２）。市の中心部は、東京駅から約６０km、横浜駅から約３７kmの距離にあり、北方には、神奈川の屋根である丹沢連峰、南方には渋沢丘陵と呼ばれる台地が東西に走り、県下で唯一の典型的な盆地を形成しています。秦野市の最高地点は、標高 1490.9 メートルの塔ノ岳です。最低地点は、鶴巻地区の 16.2 メートルです。

丹沢連峰の塔ノ岳から発する水無川、春嶽山からの金目川は、盆地に入って扇状地地帯を形成し、市街地を形成しています。

図 2

また本市の気候は、年平均気温が 15.3℃（最高 34.9℃、最低－3.6℃）と比較的温暖で、多様な農産物が生産される恵まれた環境にあります。

このような地形から、秦野盆地は地下水を豊富に蓄えており、市内の各所で湧き出し、秦野盆地湧水群として名水百選の一つに選ばれています。これら地下水を水源とする湧水や水道水などを「秦野名水」として定め、その普及と啓発のためにロゴマークを商標登録しました（図３）。本市は地下水環境保全条例をいち早く設置するとともに、この市民共有の財産である地下水に関する興味、関心を持ってもらうことを目的に、環境フェアの開催や、はだのエコスクール等の食の循環にもつながる出前講座も実施しています。また、地下水の保全について、市民や子ども達にわかりやすく伝えるためにホームページからのダウンロード可能なオリジナルの地下水

保全紙芝居等を作成し、誰もが環境学習の教材として活用できるようにするなど、秦野名水を大切にする気持ちを育ててきました。

さらに、この秦野盆地の地下から汲み上げた地下水を原料とした「おいしい秦野の水～丹沢の雫～」は、『名水の里はだの』を広くＰＲし、地震など非常時に備えた備蓄用の水としても利用していただくために、平成２０年１０月から販売を続けています。平成２７年１月１日に市制施行６０周年、３月１５日に給水開始 125 周年を迎えるにあたり、平成２６年に実施した全国公募事業により、ボトルのラベルデザインを一新しています（図４）。

地下水を水源（原料）とする製品等に使用する
「秦野名水」ロゴマーク（図３）

新たなラベルのボトルドウォーター
「おいしい秦野の水～丹沢の雫～」（図４）

（２）落花生、カーネーション、八重桜等の産地

本市の農業の特性は、横浜等の首都圏の大消費地に近いという地理的条件を生かして、野菜、果樹、花き、畜産など、少量多品目な農産物を生産する都市型農業です。県内有数の特産物として、古くから栽培の歴史がある落花生、カーネーション（図５）、八重桜（図６）などがあります。

カーネーションの温室（図 5）

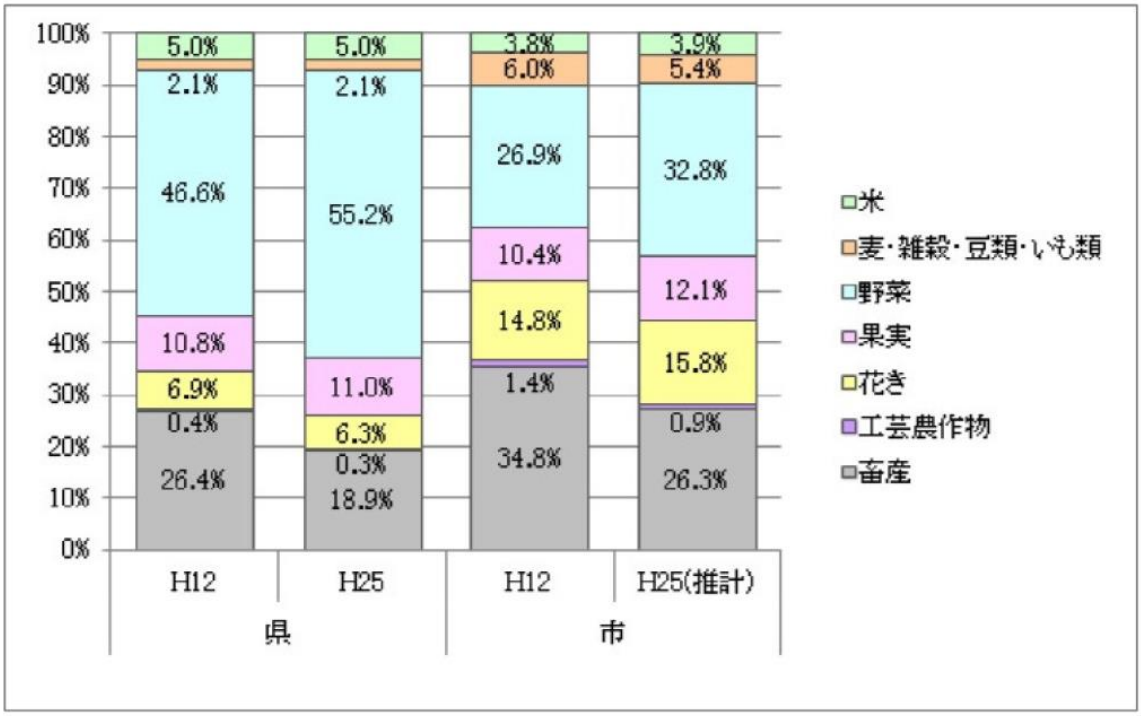
頭高山の八重桜を収穫する園児たち（図 6）

また、農業産出額※は、平成２年まで増加傾向にあり、神奈川県で 1,120 億円、本市で 56.2 億円に達しましたが、担い手の減少や農産物価格の低迷などからその後は減少傾向に転じ、平成１７年には、神奈川県で 755 億円、本市では３０億円に落ち込みました。近年は、農産物価格の変動等により、農業産出額はやや増加傾向にありますが、担い手の減少や輸入農産物の増加等により、今後、再び減少に転じることが懸念されます。

なお、部門別に見ると、神奈川県、本市とも、特に野菜の産出額が増加傾向にある一方、畜産の産出額は減少傾向にあります。

また、構成割合から見ると、本市では、神奈川県と比べて野菜の割合が低く、畜産の割合が高くなっています。さらに、落花生やカーネーションなど県内有数の産地となっている品目もあり、麦・雑穀・豆類・いも類や花きの構成割合が高くなっています（図７）。

県と市の農業産出額の構成割合比較（H12-25年）：（図7）



秦野市農協の農産物取扱額は、平成１４年に開設した「はだのじばさんず（大型直売所）」の取扱高が大きく増加したことにより、農業産出額が大きく減少する中、概ね、年間２０億円の水準を維持していましたが、近年の取扱高は減少傾向にあります。

市場等へ出荷する「共販分」が大きく減少していますが、都市農業の利点でもある販路の多様化に伴い、地元スーパーなどの量販店や飲食店、卸業者、消費者等と直接取引をする農業者も増えています。

（注）※ がついた語句は、参考資料の「6　用語解説」に、五十音別に掲載しています。

（３）食の安全・安心と交流を意識した地産地消の推進

農産物に対する安全・安心志向が望まれる中、本市の農産物は収穫後、ＪＡはだのじばさんず※等の身近な直売所、市内の小売店やスーパー、量販店、小学校給食への供給等が定着しています。本市の地域特性・資源を生かした観光農業・体験型農業の実施促進（図 8、9）とあわせ、農産物の生産者等と市民との交流を推進し、安全・安心を確保しながら地産地消を進めています（図 10、11）。

「丹沢はだの、名水そだち」のシンボルマーク。
環境にやさしい農業をキーワードに、秦野優良農産物等登録認証制度を進め、周知と販路拡大を図っています。（図 10）

魅力ある自然が数多くある上地区。美しい景観を感じながらの農園ハイク。
旬の農作物の収穫体験、直売や田舎暮らし体験イベントも開催しています。（図 8）

上地区農園ハイク　モモの収穫体験（図 9）

畜産まつりで「見て・さわって・味わって
秦野の畜産と触れ合おう（図 11）